



救出された児童を消防団員が搬送



教室に取り残されている児童を消防隊員が救出



小学校で火災が発生したことを想定して避難する児童たち

大規模な災害に備え

八重瀬町防災訓練

大規模な災害に備えるため、八重瀬町防災訓練が11月6日、具志頭小学校で行われ、具志頭小学校、役場、島尻消防本部、糸満警察署、消防団など関係団体から約400人が参加しました。

訓練は、本島南西沖を震源とする強い地震が発生し、具志頭小学校で火災が発生していることを想定した内容。

訓練内容は、災害対策本部の設置や関係機関との情報伝達、児童の避難誘導など6項で安全、迅速、確実に実行できるよう行われました。

訓練には、教室内に児童が取り残されているという想定もあり、学校の先生、消防隊員や消防団員、救護員が連携をとり救出から搬送、応急処置まで行われました。

訓練の最後には、島尻消防職員から消火器の使用方法について指導も行われ小学生や先生が消火器の使用法を体験しました。



消防隊員の消化・救出状況について報告



救護員が児童の容態を確認しながら応急措置



無線を使って情報伝達訓練



学校の先生・生徒による消火体験

ひょうひでも上を目指して技術高める

昨年、ほぼ同じ時期に南部商業高校と糸満高校にボウリング部が設立されました。部員のほとんどが町内出身者ということもあり両校互いに切磋琢磨しながら一つでも上を目指して行こうとボウリング活動に奮闘しています。

部員10人が加入している南部商業高校ボウリング部と部員6

人の糸満高校ボウリング部。設立のきっかけは、平成19年に沖縄県高体連にボウリング専門部が加盟したことからです。まだ発足したばかりの若いチームですが、中学校時代からボウリング競技を経験している嶺井琴文さん（南部商業高校）や與ゆいさん（糸満高校）などの選手をはじめ徐々に力をつけています。11月4日行われた県新人ボウリング競技大会においては団体戦で入賞（糸満2位、南部商業3位）を果たし、来年3月に開催される全国大会の切符を勝ち取っています。

両校とも一週間に一度は同じボウリング場に足を運び練習をしています。この日は、お互い

隣り通しのレーンで合同練習に励んでいました。

南部商業高校の嶺井琴文さんは、中学時代に国体に出場した実力のある選手です。「調子が悪い時でもみんなで作っている」と楽しみながらボウリングに打ち込めます。また若いチームなので一人ひとりが楽しみながらプレーしていきたい」と話しました。また、昨年11月に行われた県高等学校新人ボウリング大会、個人の部で優勝経験のある糸満高校の與ゆいさんは「南部商業高校には、中学時代からの友達も多く、お互いなんでも言い合える関係。良きライバルとして技術を高め合っていきたい。全国大会では、優勝を目指したいです」と目標を話しました。

